

第 1 回 Digital Innovation City 協議会 議事録

- 日 時：2021 年 4 月 28 日（水）15 時～16 時 30 分
- 場 所：WEB 会議（協議会運営事務局集合場所：テレコムセンタービル 東棟会議室 2）
- 参加者：構成員 8 者各委員（1 者代理）

- 議 事：

<「Digital Innovation City 協議会」の設立について>

- 協議会運営事務局より、設置要綱に基づき DIC 協議会の設立について説明
 - ・ 協議会は令和 3 年 3 月 30 日設置
 - ・ 臨海副都心における「デジタルテクノロジーの実装」及び「スタートアップの集積」を推進する Digital innovation city の実現に向けて協議する事を目的とし、設立
 - ・ 協議会の構成員については、本日まで参加頂いている 8 者の皆様
 - ・ 協議会運営事務局については東京都港湾局臨海開発部開発企画課
 - ・ 協議会の下にプロジェクトチーム（PT）を設置し、具体的な話を検討予定
 - ・ 協議会では議事録を作成してホームページ等で公開する

<「Digital Innovation City」の目指すべき姿>

- 協議会運営事務局より、目指すべき姿について説明
 - ・ 令和 3 年 3 月に「未来の東京」戦略が公表され、2040 年代の姿を描き、その実現に向け、2030 年までの戦略とプロジェクトを策定
 - ・ その中の「スマート東京・TOKYO Data Highway 戦略」（戦略 10）で、ベイエリアを含む先行実施エリアでの展開・モデル確立（2022 年）などが掲げられている
 - ・ ベイエリアの目指すべき姿について、「先端技術開発を担うスタートアップや e スポーツ関連企業等の進出を支援」、「自動運転技術を活用したビジネスモデルの構築を支援」、「最先端技術を活用したイベント支援など、まち全体のショーケース化」が掲げられている
 - ・ 「TOKYO Data Highway 戦略」の当面 3 か年のアクションプランにおいて、ベイエリアではスタートアップの集積、ニーズ調査等検討・調査し、進出企業の支援と、自動運転のビジネスモデルの構築支援を、この 3 か年で進めていく事が東京都の計画に含まれる
 - ・ 令和 3 年度の DIC に向けた取組としては、東京都の計画を基に、今回の DIC の取組みを進めていく
 - ・ その大きな柱が「デジタルテクノロジーの実装」、「スタートアップの集積」
 - ・ また、具体的な方向として
 - まち全体を先端技術のショーケースとして、先端技術を活用したイベントや実証実験を実施すること

を通じ、先端的なエリアとしての知名度向上を図る

- 自動運転技術を活用した実証実験・ビジネスモデルの構築を支援
- まちと関連事業者等との連携による DIC 推進体制として協議会を運営
- 5G 等通信環境整備やスタートアップ企業等ベイエリア DIC 推進事業を支援する取組み

○ 主な意見

- ・ ライブ・エンタメ分野で、デジタル技術を活用した動員力があるイベントがエリア内で開催されており、都内で実施できる場所も限られるため、有望なのではないか
- ・ 2030 年は SDGs の目標年に当たるため、意識すべき
- ・ アクセシブルな街、モビリティに力を入れていきたいと考えており、その辺り連携したい
- ・ パンデミックの状況に対応した内容をどのくらい意識すべきか検討が必要

<「Digital Innovation City 協議会」の進め方について>

○ 協議会運営事務局より、進め方について説明

- ・ 第 1 回協議会の開催後、協議会の会員へヒアリングを行う予定
- ・ 協議会の第 2 回を 9 月頃、第 3 回を 11～12 月頃、第 4 回を 1～2 月頃に開催予定
- ・ イベントや実証実験を 9 月～10 月頃から、来年 1 月頃まで実施予定
- ・ 地元企業、研究機関の皆さまのイベントや実証実験とも併せて実施したい
- ・ 今後、PT の設置を進め、概ね 4 テーマ程度をこのエリアで実施したい
- ・ 5G 等の通信網の整備について、各キャリアへの声掛けを進めるが、協議会員にもアセット開放への意見を頂戴したい
- ・ 広報活動として、SNS、ホームページを開設していく

○ 主な意見

- ・ 情報発信力を高めるため、「プロジェクションマッピングアワード」や「メディア芸術祭」などのイベントと時期を合わせてイベントを開催すべき

<委員からの活動紹介>

○ 東京都立産業技術研究センター、産業技術総合研究所臨海副都心センター、日本科学未来館より取組を紹介

○ 主な質問・意見

- ・ 屋外や商業施設において実証実験を行いたいというニーズがスタートアップにあるのか
- ・ 今まで出来なかった実験は、どのあたりに課題があるか（コスト、安全面、個人情報など）
- ・ 課題やハードルを緩和する事で、色々な実験が為されていく事が一つの目指す姿だと感じた

以上